

6011-1491  
令和5年10月18日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号について

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

## 令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号

### 1 病害虫名：フタテンミドリヒメヨコバイ

*Amrasca biguttula* (Ishida, 1913)

### 2 作物名：オクラ

### 3 発生確認の経過

令和5年(2023年)8月下旬、県南部のオクラほ場において、葉の黄化・萎縮症状を確認し(図1)、被害葉上で、翅の中央後方に目立つ黒点を有するヨコバイ類の寄生を確認した(図2)。ほ場から虫体を採取後、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未確認のフタテンミドリヒメヨコバイであることが判明した。

### 4 国内の発生状況

国内では、沖縄県のオクラで発生が確認されているほか、平成17年(2005年)に東京都小笠原諸島のナス・オクラ・ハイビスカス、令和2年(2020年)に熊本県のオクラ、令和3年(2021年)に高知県のナス、令和4年(2022年)に徳島県のオクラでの発生が確認されている。

### 5 形態及び生態の特徴

#### (1) 形態

成虫の体長は、2.7mm前後。体色は黄～黄緑色で、背方から見ると頭頂部と翅の中央後方に目立つ黒点を有する。(図3・4)。幼虫の体色は黄緑色で、3～5齢幼虫では胸部背面に4個の暗色斑を生じる(図5)。

#### (2) 生態

雌成虫は黄白色の卵を葉脈に一度に15卵ほど産卵する。卵は孵化直前には灰色がかった黄色になる。卵は4～11日で孵化し、幼虫期間は7～21日、成虫の寿命は35～50日である。

#### (3) 被害

幼虫・成虫とも新葉や茎を吸汁する。本種に吸汁された葉は黄化や萎縮症状を呈し、生育が抑制される。

#### (4) 寄主植物

アオイ科（オクラ、ハイビスカス、ワタ他）、ナス科（ジャガイモ、ナス他）、マメ科（ササゲ、ダイズ他）など。国内では、オクラ、ナス、ハイビスカスでの被害の報告がある。

### 6 防除対策

- (1) 被害葉の早期発見に努める。オクラで本種を発見した場合は、速やかに下記登録農薬で防除を行う（表1）。なお、農薬の使用にあたっては、最新の情報を確認し、使用基準を遵守する。
- (2) 本種に寄生された作物や残渣を放置すると、近隣のオクラ等の寄主植物に本種が移動し、繁殖する可能性があるため、栽培終了後は、作物や残渣を適正かつ迅速に処分する。



図1 オクラの被害葉



図2 葉への寄生



図3 成虫

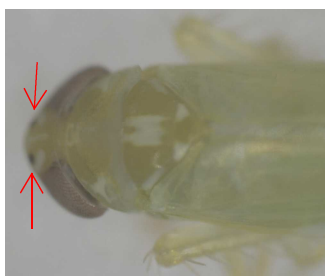


図4 成虫頭部



図5 幼虫

表1 フタテンミドリヒメヨコバイに対する登録農薬（オクラ）（令和5年9月現在）

薬剤名	商品名	希釈倍率	散布液量	使用方法	総使用回数	使用時期
アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	1,000倍	100-300 L/10a	散布	1回以内	収穫7日前まで
	ジェイエース水溶剤					
	ジェネレート水溶剤					
	スミフェート水溶剤					
ジノテフラン水溶剤	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	100-300 L/10a	散布	3回以内 (散布2回以内) (株元散布1回以内)	収穫前日まで
	アルバリン顆粒水溶剤					
フロニカミド水和剤	ウララDF	2,000倍	100-300 L/10a	散布	3回以内	収穫前日まで

#### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>